

～毎月10日は人権を考える日～

「子どもの人権を守る」その③

日本が1994年に批准した「**児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)**」は、子どもの基本的人権を国際的に保障するために定められた条約です。

○ 子どもを、大人と同様ひとりの人間として認める(子どもを権利の主体と位置づける)
ことが必要です。

子どもの虐待等が問題視されています。子どもは、大人になるまで大人からの保護や支援が必要です。しかし、子どもは大人の所有物ではなく、大人と同様に「ひとりの人間」として生きているのです。

子どもの権利条約の「原則」を再度確認してみましょう。

この条約には、4つの原則があります。

「命を守られ成長できること」

すべての子どもの命が守られ、もって生まれた能力を十分に伸ばして成長できるよう、医療、教育、生活への支援などを受けることが保障されます。

「子どもにとって最もよいこと」

子どもに関することが行われる時は、「その子どもにとって最もよいこと」を第一に考えます。

参照：「ユニセフ」のホームページより

https://www.unicef.or.jp/about_unicef/ab

「意見を表明し参加できること」

子どもは自分の関係のある事柄について自由に意見を表すことができ、大人はその意見を子どもの発達に応じて十分に考慮します。

「差別のないこと」

すべての子どもは、子ども自身や親の人権、性別、意見、障がい、経済状況などどんな理由でも差別されず、条約の定めるすべての権利が保障されます。

子どもはいろいろなものに興味を示し、「やってみたい」「挑戦したい」「やらせてほしい」と考えているのではないかと思います。それを後押しするのは、友達であったり家族であったり地域の大人であったりするのです。決してそのやる気を失わせるような言葉がけはしたくありません。「そんなことはできるわけがない」「あなたには無理だ」「自分の力を考えろ」など、思わず言ってしまうそうです。しかし、やってみないと分からないのが人生です。可能性に挑戦する姿を応援したいです。失敗することも成長するためには必要です。成功ばかり体験している子どもは、大きな壁にあたったときにどうするのだろうと心配になります。

失敗したときにどんな言葉をかけていけばいいのでしょうか。その時々によって状況は違うでしょうから、同じ言葉がけにはならないとは思いますが、少なくとも、子どものしたことを肯定し、そのことを尊重する言葉がけと態度をとりたいものです。

「言わんことではない。言うことを聞け。」「だから、やめとけと言ったろ。」などとは言いたくありません。「失敗することもあるんだよ。」「失敗は君の力になるんだよ。」「頑張る姿を見てうれしくなったよ。」「失敗しながら成長するあなたを見るのがうれしいよ。」「失敗してもいいんだよ。そんなあなたが大好きだから。」などの言葉をかけたいものです。

子どもが自ら自分を見つめ直し、自分の進路を見つけられるように周囲の大人が支えていけたらいいなと思います。子どもを肯定し尊重する大人、また親でありたいと思います。

子どもへの接し方から、自分自身の人権感覚をチェックしていきましょう。そして、子どもから信頼される素敵な大人になりたいものです。

